

## 国別調査 ブラジル

### ——ブラジルから日本への移住と労働——

発表者： 藤原由翔 小野寛司 鈴木一誠 藤田朱夏 山口智弘

#### 目次

1. ブラジルの概要
2. 食文化
3. 教育
4. 労働環境
5. 賃金
6. 移住の現状
7. 参考文献

#### 背景

2050年問題という言葉聞いたことがあるだろうか。2050年問題とは、人口減少、少子高齢化、労働力の減少などといった、2050年に予想される問題のことである。経済産業省によると、2050年に日本の人口は約1億人まで減少する見込みで、今後、生産年齢人口比率の減少が加速すると述べられている。こうしたことから、今後、日本の多くの企業、業界で人手が不足するのではないかと考えられる。人手不足の解決策としてはAIによる業務の自動化、女性の就業者数増加、そして、外国人の受け入れが挙げられる。今回の国別調査では、外国人の受け入れを視野に入れ、日本のから遠く、ほぼ反対側に位置する国であるブラジルについて調査を行った。

#### 内容

ブラジルは日本の22.5倍の面積があり、約2倍

の人口がいる。宗教に入っている人が多く、無宗教が約8%であり、無宗教が多い日本と対照的である。

ブラジルでは、小学校が5年間で中学校が4年間と、日本とは違うが、6歳から15歳までの9年間で義務教育の期間であり、期間は日本と同じである。高校への進学率はほぼ10割で、短大を含めた大学進学率は5割で、日本と割合に近い。

日本とブラジルの労働裁判を比べると、ブラジルは日本より非常に多く、そして日本と違って労働裁判所というものが存在しており、労働者と雇用主の間で多くの問題を抱えていると考えられる。

日本にいる在留外国人は、中国人が最も多く、ベトナム、韓国、フィリピンに次いで、ブラジルが5番目に多い。永住者の人数でみるとブラジルは3番目に多く、そして永住者は就労に制限が無い場合、日本人と同じ仕事をするのが可能である。

#### 結論

ブラジルでは、労働に関する裁判が多いため、ブラジル人が日本に移住して労働をした場合、会社を訴えて裁判を起こす可能性が高いのではないかと考えられる。会社にとっては悪いように捉えてしまうかもしれないが、労働環境などを改善する大きなきっかけになると考えられるため、ブラジル人を多く雇うのであれば労働環境が改善され、そこで働くブラジル人以外の人にも良い影響が与えられるのではないかと考えられる。